

2. 一般質問

平成30年 第3回定例会

以下の4項目について、一般質問しましたので、主な内容を報告します。

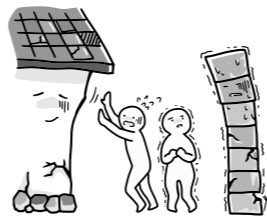
1) 空き家対策について

大阪府では、移住・定住促進に向けて、空き家を所有者と希望者のマッチングを促進する為の「空家バンク」が推奨されています。本市として、設置する予定は無いと聞いていますが、私は、**空き家を有効に活用する**と共に、**未然防止策に注力する**必要があると考えています。

また、熊本地震の際、**復興の妨げになっていたのが「空き家」の存在**と言われていました。所有者の把握が難航し、撤去の遅れが復興の妨げになったことに加え、倒壊寸前の建物が所有者不明で放置されていることで、**二次被害が起きる恐れ**が出ていました。

本市は、住宅の密集度が高く、余震による二次被害の危険性が更に大きくなります。大規模災害が起こる前に、**所有者不明物件の特定**を急ぐ必要があると考えます。

空き家対策には、非常に時間を要し、時間の経過と共に、状況が変化する為、都度、適切な判断が必要となりますが、迅速且つ効果的に進めて頂く様に、要望しました。



2) 豪雨対策について

本市は、平成24年8月に、**時間最大65mmの降雨により、床上浸水や道路冠水の被害が発生**しており、その**殆どが内水氾濫**によるものです。

現在の気象技術では、**局地的集中豪雨を予測することが困難**であり、短時間で特定の地区が水浸しとなります。浸水の危険地区などにポイントを絞って、**集中的に対策を講じることが効果的**であると考えます。雨水貯留施設等によるピークの低減や、各排水区での管路間をネットワーク化・バイパス化し、雨水を相互に融通することにより、**浸水の解消・軽減を図る**ことを要望しました。

また、どれだけハードを整備しても、その**想定を超える災害**は起こり得ます。むやみな避難はかえって危険であり、**予め地域防災マップを理解**し、起こり得る水害を想定しての**実践的な避難訓練が重要**です。

ハード面、ソフト面を上手く組み合わせ、効果的な対策を講じて行くことを要望しました。



3) 地域コミュニティ活性化について

今、全国の多くの自治体で、地域の参加と協働を進め、コミュニティ活動の組織化を目指す取り組みが進行しつつありますが、**「コミュニティ施策とは何か？」についてのビジョンを持たないままに、取り組んでいるケースが多く見受けられる**と感じています。

コミュニティ施策の根幹は、**行政が地域の状況に寄り添い、地域コミュニティの自立的発展**を促すべく、市民の方々が主体性を持って取り組める様に、サポートすることです。地域内の住民同士、或いは、地域と行政の間をつなぎ、調整する**コーディネイター的な役割が行政に求められている**と考えます。

現在、様々な分野で活動されている団体が存在しますが、今こそ、**有機的に連携させる仕組み作りが必要**であり、地域との信頼関係を築き、柔軟且つ総合的な対応が求められると考えます。「つながりのまち摂津」を実現すべく、一歩踏み込んだ取り組みを要望しました。



4) 鳥飼地域の魅力化について

本市において、**鳥飼地域を優先的に研究する「2040年に向けた魅力ある地域づくり研究会」が発足**されました。構成メンバーは、庁内で、**部局横断的に18課から19名が選抜**されています。これは、我々「自民党・市民の会」として、拘りを持って、**鳥飼地域の活性化を申し入れ続けて来た結果**だと認識しています。研究期間は2年間で、計12回の議論が成される予定となっています。

特に**鳥飼東部の人口減少、児童数減少は顕著**であり、早く手を打たなければなりません。まずは、**鳥飼地域全体のグランドデザインを描く**必要があり、**あるべき姿を明確にする**と共に、今までの延長線上に拘らず、まずは大胆に発想し、そこから精度を高め、**着実に着地するプロセスが重要**と考えます。

鳥飼地域の魅力化に向け、広い視野と高い志を持って、精力的に取り組んで頂く様に、要望しました。



平成30年 第4回定例会

以下の3項目について、一般質問しましたので、主な内容を報告します。

1) 健康寿命延伸への取り組みについて

厚労省は昨年、「健康寿命」が、2016年時点において、男性72.14歳、女性74.79歳だったと公表しました。徐々に伸びている一方で、**平均寿命と健康寿命の差は、男性8.84年、女性12.35年と、この15年で拡大**しています。

健康づくりを更に発展させる為には、「**動機付け**」、「**ICTの活用**」、「**課題の見える化**」の3つのポイントがあると考えます。既に取り組んでいる人に継続してもらうことも重要ですが、それにも増して重要なことは、現在、**取り組んでいない方々に、如何にして取り組んでもらうか**ということです。まずは、この「行動を変える」という「**動機付け**」が重要であり、健康づくりに無関心な方々への切っ掛け作りや継続性を狙うべく、**更なるインセンティブ（やる気を起こさせる刺激）強化**が必要と考えます。

健康長寿社会の実現に向け、健都の中核となる国立循環器病研究センターや関係機関との連携を図ると共に、様々な角度からメスを入れ、先進的且つ効果的な健康寿命延伸への取り組みを要望しました。



2) 府道大阪高槻線について

府道大阪高槻線は、平成26年に**都市計画決定が廃止（整備計画が実質的に白紙）**となり、**大幅な改善が見込めない状況**となってしまいました。

現状は、**歩道幅員が狭く、段差や波打ちも酷い**状況ですが、歩道には、「自転車通行可」の標識がある為、法的には、自転車を通れる様になっており、**すれ違う際には危険を感じる**との声を、地域の方々から多く耳にします。

そんな状況の中、長期的な「あるべき姿」を描くと共に、将来を見据え、中期的な視点に立って、**実現可能なスキームを構築**し、対策を打つ必要があると考えます。現在、車道には、目的が曖昧なゼブラゾーンも存在します。現道幅員の中で、車道と歩道を再配分することで、**安全性が格段に向上**すると考えます。

府道大阪高槻線は、本市の東西を繋ぐ重要な幹線道路であり、市民の方々が安心して暮らせる様に、更なる対策を進めなければなりません。歩行者、自転車、車が共存し、それぞれの安全を担保する為、**粘り強く大阪府に働き掛ける**と共に、更に一歩踏み込んだ取り組みを要望しました。



3) 鳥飼地域の魅力発信について

現在、鳥飼地域の魅力づくり研究会は、「**交通利便性**」と「**教育**」のあり方について、**優先的に深掘りして研究**されています。「自民党・市民の会」としましても、義務教育学校で成果を上げている守口市の「**さつき学園**」を視察に行き参りました。さつき学園では、小中一貫教育の目的として、学校終了時の「15歳の学力・進路」に責任を持つことと定め、「**確かな学力の定着**」「**中1ギャップの解消**」「**地域に根差した学校**」を目指す教育像と掲げ、**学校・家庭・地域がつながる施策**に取り組んでおられました。研究材料の一つとして、参考にするべきと考えます。

私が考える鳥飼地域の魅力化として、**鳥飼西部**は、南摂津駅周辺を核とした施策を投じ、**賑わいづくりを仕掛ける**と共に、飲食店や商業施設を集積、活性化させることに加え、交通機関を整備、拡充することで、**利便性を向上**させ、**安威川以南の玄関口**の機能を果たすべきと考えます。**鳥飼東部**は、地域コミュニティの核となる複合施設を設置し、**市民サービスの鳥飼拠点**とすると共に、**教育の質の向上**を図り、先進的且つ魅力ある教育施策を打ち出すべきと考えます。鳥飼地域の魅力発信に向け、精力的に取り組んで頂ける様に、要望しました。



摂津市に“光”を!

